

## 福音的クリスチャンとイスラエル国家との戦略的協力

2007年10月5日 アシュル・イントレーター

最近、私はエルサレムで、クリスチャン・エンバシー主催の仮庵の祭りでメッセージを語りました。メシアニック・ジューのリーダーのメッセージに関していくつか議論がありました。私のテーマは世界中の福音的クリスチャンと、現代のイスラエル国家との戦略的な協力関係についてでした。これは戦略的協力以上のものです。これは、イスラエルと教会の関係についての啓示なのです。

私はまず、預言の書からいくつかみことばを選んで読みました。それは、全世界の諸国についての明るい未来についてです。（ヘブライ語の「ゴイム」という言葉は、諸国あるいは異邦人と訳せます。）私が引用したみことばは以下の通りです。

イザヤ 2:2

イザヤ 56:7

エレミヤ 3:17

アモス 9:12

ゼカリヤ 14:16

ヘブライ人預言者はトーラー（律法の書）と福音書の間をつなぐ重要な役割を果たします。伝統的なクリスチャンあるいはラビ的ユダヤ教神学両方とも、預言書に関する明確な理解を持っていません。事実、そこには異邦人国家の明るい未来について、ヘブライ預言書は語り、クリスチャンとユダヤ人両方に対して、神のご計画の中での**共通**の運命を見いだすように語っているのです。

預言書を新しい視点で調べる事、特にイスラエル国家の再建に光を当てる事は、クリスチャンとユダヤ人の思想を再検討する必要に迫られています。神からのすべての啓示には、「型にはまらない」考えが伴います。ユダヤ人側のいくつかの例を以下に挙げます。

「預言者の地で預言者の言語」を回復させるようにと、1881年にエリエゼル・ベン・イエフダは神からの啓示に反応しました。そうする事によって、彼は現代ヘブライ語の父となったのです。

ダビデ・ベン・グリオンは独自の方法で、社会主義と国家主義を合わせてヘブライ預言者を分析し、聖書を解釈しました。そうする事によって、彼は現代イスラエル国の父となったのです。

世俗的イスラエル国家を、すぐにやってくるメシアの時代の最初の段階にあるとの見直しによって、ラビ・クックはほとんどすべてのラビ的思想を喚起しました。そうする事によって、彼はイスラエルの最初のチーフ・ラビとなったのです。

キリスト教側では、1948年のイスラエルの復活という現実、さらに続けて1967年のエルサレム奪回は、神学の革命を必要としました。古典的なキリスト教思想は、預言を単に象徴や霊的なもの、教会にのみ当てはまるものとして、とらえていました。これらの預言が突然物理的、歴史的に成就した時、「置換」神学のパラダイム全体が覆されはじめました。

さらに、現代の国際的イスラムのジハード（聖戦）は、ユダヤ人とクリスチャンを共に憎悪するため、ユダヤ人とクリスチャンが互いに忠誠関係に入るよう促されたのです。2000年から始まって、イスラエル人は「世界で我々の唯一の友は、福音的クリスチャンだ。」と言い始めたのです。

異邦人の全体が明るい未来の中にあるとは限りません。その反対に、国家は神に対して、イスラエルに対して、そしてメシアに対して反逆します。以下比較して下さい。

詩篇 2:1

ゼカリヤ 12:9

ゼカリヤ 14:2

ある異邦人は良く、ある物は悪い人々です。イスラエルはその違いを見分けなければなりません。誰が？何が？なぜか？「良い」異邦人はどこにいて、どこからやってくるのか？現在、モーセ5書を習慣的に読んでいる人々の99%はイエシュア（イエス）を信じる人々です。メシアの使命の一部はイスラエルの神の光を世界中にもたらす事です。（イザヤ 42:6、49:8）イスラエルは、この世界中に分散する、イスラエルの神を信じ、同時にイスラエルの人々を愛する集団に対応しなければなりません。

教会は、反ユダヤ主義とイスラムの聖戦という現実に対して、逃げるのではなく、対処していかなくてはなりません。それらは、イエシュアの再臨に直接つながる重要な問題だからです。「すべての国々がエルサレムに対して戦いを挑む」とは、どのように起こるのか？最初に、世界中に広まるユダヤ人の完全撲滅を呼びかけるイデオロギーがなくてはなりません。次に、そのような作戦を実施する国際的、政治的評議会がなくてはなりません。

イスラム聖戦の中に、ユダヤ人撲滅の思想を見つける事ができます。（一つの例として、アフマディネジャド大統領の最近の「イスラエルのない世界」会議を指し示す。）政治的評議会は国連に見つける事ができます。（これら二つの要素は、先週国連の総会で、アフマディネジャド大統領がスピーチを行った事によって、一つとなりました。）歴史上初めて、「なぜ」を説明するイデオロギーと、「どうやって」を支える政治的評議会を見ることができるのです。それはまさに私たちが「目覚める」時期に来ているのです。

イスラム聖戦と世俗的ヒューマニズム（国連での）の連合は、ヒトラーの第三帝国よりも、さらに危険なものです。これら二つの世界観は、一見相容れないものに見えますが（ジハードとヒューマニズム）、それはダニエル書の「獣」を思い起こさせ、それには鉄と粘土が混ざった足を持つと説明されています。（ダニエル書 2:41、7:7）

福音的クリスチャンとイスラエル国家の同盟は、単にイスラムと反ユダヤ主義に対する防衛ではなく、神のご計画に対する革新的な啓示なのです。エペソ書 2 章には、イスラエルと教会の結婚が書かれており、エペソ書 3 章にはユダヤ人と異邦人が、神の御国の中でのパートナーシップについて説明しています。もし、私たちがお一人の神を持つならば、主はすべての人の神でなければなりません。私たちは、メシアであるイエシュア、教会の頭（エペソ 1:20）であり、またイスラエルの王（ヨハネ 12:13）である方を信じています。

福音的キリスト教は霊的運動であり、一方イスラエルは国家政府です。機能は異なりますが、それは霊と魂のようです。両方とも目的があり、両方とも互いを必要としています。互いを置き換える理由もありません。クリスチャン・シオニストが特定の政党や政策をイスラエル政府に押しつける理由もありません。クリスチャンが自分はユダヤ人だと見せかける理由もありません。

一方では、イスラエルはクリスチャン・シオニストを真の友として信頼する事ができます。世界に広まった、善意の支援を見過ごす事は悲劇となります。また、イスラエルはメシアニック・ジューの信仰の自由を制限する理由もありません。イスラエルは、信仰の表現、イエシュアを信じるユダヤ人信者を含む、その自由を可能とする国家である事を誇りにしなければなりません。

私たちメシアニック・ジューはユダヤ人をクリスチャンに改宗させたいとは、まったく思いません。同時に、クリスチャンをユダヤ教に改宗させたいとも思いません。両方の土台の改革を求めているのです。これは、表面的な文化に対する感受性の問題ではなく、愛にあふれた、勇敢な召命に対する聖書的改革—イスラエルの回復につながるもの（使徒 1:16）、死者からの復活（ローマ 11:15）、そして、メシアの再臨（マタイ 23:39）—であるのです。

エゼキエル 37:15-28 には、預言者が二つの杖を取り上げる象徴的な行動について説明しています。一本はユダの子らを表し、もう一本はイスラエル全家を表します。その二本を手の中で一つにします。この預言はメシアの支配下での、神の民の一致を預言しています。これは二つのレベルに解釈する事ができます。一つは文脈通り、イスラエルの人々の中での一致であり。霊的な拡大解釈では、イスラエルの残りの民と世界中の真に信じるクリスチャンとの間の一致です。

現在、エゼキエル書の足跡を、私たちは辿っています。私たちの手の中で、これら二本の杖が一つとなるよう祈りましょう。そうすることによって、「一つの国とするとき、ひとりの王が彼ら全体の王となる」のです。（エゼキエル 37:22）そして、「主は地すべての王となられ、御名もただ一つとなる」のです。（ゼカリヤ 14:9）